

# 企業間の出向活用による雇用の安定化対策

## 景気変動期におけるミスマッチの発生

雇用は景気に対する遅行系列であるため、景気の変動期にミスマッチが発生。特に、将来の見通しが難しい状況では、その影響が大きい。

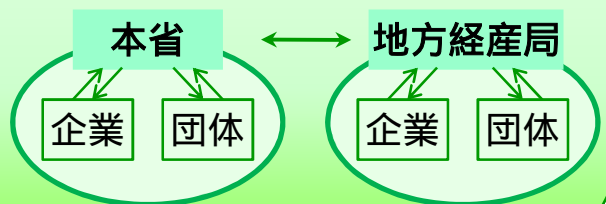
(例)失われた10年では、2001年11月に鉱工業生産指数が底打ちをしているが、完全失業率は、2002年6月に過去最高を記録し、2003年4月まで同水準が続いた。

## 景気変動期における経営オプションの追加

景気変動期には、社員の新規採用も解雇も難しい選択肢であるため、新たな経営オプションとして、企業間出向による社員のフレキシブルな活用を提示することが有効。

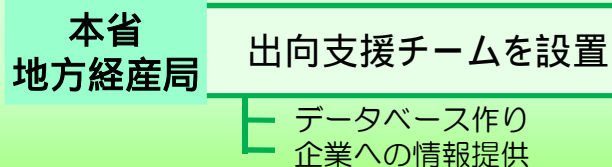
(受入企業)即戦力が欲しいが、新たに社員を雇用することは、コストの負担感が大きく、心理的ハードルが高い。  
(送出企業)現在は稼働率が低く、解雇を検討しているが、景気が回復したときのために、可能ならば雇用を維持したい。

- ・ 経産省の現場力を生かし、積極的に出向ニーズを把握



景気変動期の時限措置として実施

- ・ 本省、地方経産局に支援チームを設置
- ・ 企業への情報提供を実施



(財)産業雇用安定センターとも連携

## 企業同士の契約



雇用の安定化

## < 企業間の出向活用による利点 >

- 解雇防止
- 従業員の生活の安定
- 雇用需給の弾力化
- 研修効果
- 正社員化の促進